

経営比較分析表（令和6年度決算）

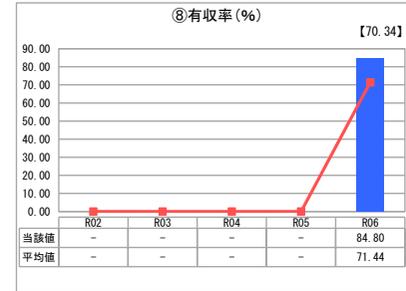
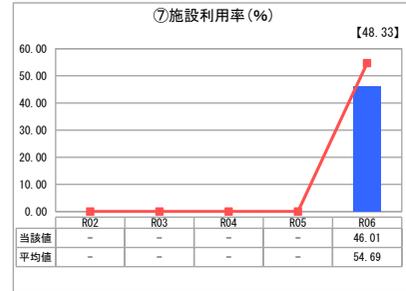
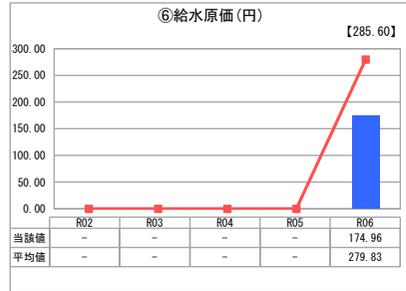
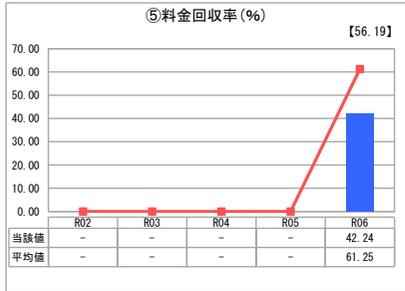
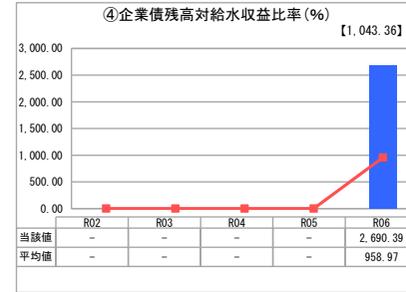
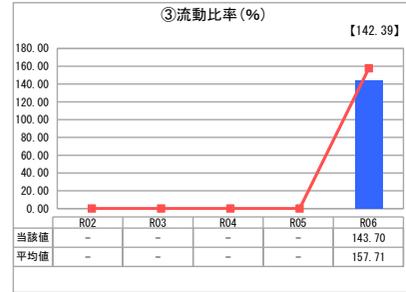
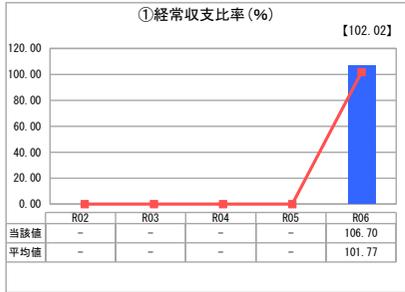
高知県 田野町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	簡易水道事業	C3	自治体職員
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	36.64	99.00	1,540	

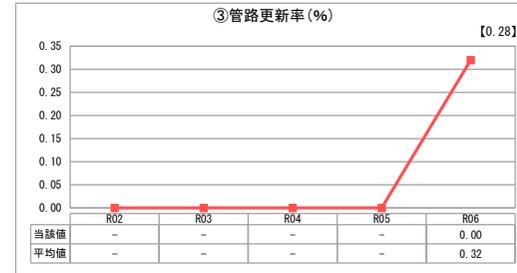
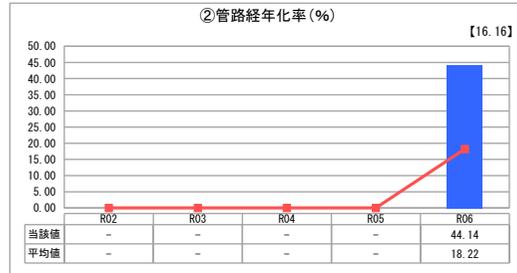
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
2,419	6.53	370.44
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
2,365	0.07	33,785.71

グラフ凡例	
■	当該団体値 (当該値)
—	類似団体平均値 (平均値)
[]	令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率について
給水人口及び料金収入ともに近年減少傾向にあり、給水にかかる維持管理費等を料金収入でまかなえておらず、一般会計からの繰入金（補助金）により黒字となっている状況である。今後、経費の改善を図るため、適切な料金設定等検討する必要がある。
- ② 流動比率について
平均値を下回っているものの、100%を上回っており、資金繰りは良好であるといえる。引き続き、安定して経営を行えるように努める。
- ③ 企業債残高対給水収益比率について
類似団体の平均値を大きく上回っており、事業規模に見合った更新工事を今後検討していく必要がある。減価償却費等勘案して、料金収入に見合った適切な投資規模、戦略であることを検討し、事業を行っていく。
- ④ 料金回収率について
類似団体の平均値を下回っており、水道供給にかかる費用を料金収入でまかなえていない現状である。一般会計からの繰入金（補助金）により、赤字分を補填しており、今後適切な水道料金を検討し、供給に係る費用は料金収入でまかなえるよう、努める必要がある。
- ⑤ 給水原価について
類似団体の平均値を大きくしたまわる数値ではあるものの、有収水量や営業費用等の変化を考慮し、投資の効率化や維持管理費等の経費削減に努め、経営の安定化を図る。
- ⑥ 施設利用率について
時季によっては、一日配水能力相当を配水することもあり、類似団体の平均値を下回っているものの、施設規模は適切であるといえる。
- ⑦ 有収率について
類似団体の平均値を上回る数値ではあるものの、近年減少傾向にあり、漏水やメーター不調等が懸念される。令和元年度まで管路更新を行ってきたこともあり、近年は漏水調査等を行ってきたが、調査区域等検討し減少している原因特定に努める必要があると考える。

2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率について
類似団体の平均値を大きく下回る数値であり、有形固定資産（建物・機械等）は比較的新しく、健全な状態であるといえる。今後の更新や修繕計画等検討する際には現状の償却率を考慮して進めていく。
- ② 管路経年化率について
当該指標値は、「44.14」となっているが、正しい数値は「4.4」である。令和元年度まで、基幹管路の更新を行ってきたこともあり、類似団体に比べて、管路は比較的新しいといえる。令和8年度に、基幹管路の更新を予定しており、今後は、法定耐用年数や減価償却費等を考慮した計画をたて、更新を進めていく。
- ③ 管路更新率について
近年は、管路更新事業を行っていないが、令和8年度より管路更新工事を予定している。今後の更新については、経営状況や事業規模は適切であるかどうか検討を行い、法定耐用年数を考慮した更新を行うよう努める。

全体総括

令和6年4月1日より地方公営企業会計へ移行となり、財政状況をより正確に把握することが可能となった。経営に関する改善点等明確に分析することができるため、投資規模や料金設定等検討し、安定した事業運営ができるよう努める。